

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『頭のなかを浚う』

2017年11月24日

運用本部

今年もあと1ヵ月と少しとなりました。みなさまは、どのような1年だったでしょうか。

今年の我が家の大きな出来事は、引越でした。

以前に住んでいた場所からはそう遠くないところへ引っ越したのですが、例えば、部屋の間取りも広さも異なっているため、家具の置き場所などを新たに見直す必要に迫られました。壁の数が減るため、壁に沿って置かないと違和感のある家具など、たくさんの家具を思い切って処分しました。しかし、それでもなお、未だに満足する部屋にはなっていません。

やましたひでこさんが提唱する「断捨離」は2010年の流行語にも選ばれ、こんまりこと近藤麻理恵さんは著書『人生がときめく片づけの魔法』の翻訳版が米国などで流行し、2015年にTIME誌「世界で最も影響力のある100人」に選ばれるなど、人々の整理整頓についての興味は以前より高まりつつあると感じています。

その背景には、いくつかの理由があると考えられますが、私が部屋をすっきりさせたい理由のひとつに、心理的な余裕を持ちたいということが挙げられます。

私たちは、食事はどんな料理をどの店で食べるか、洋服は何を着ていくか、テレビはどの番組を観るかなど、日々生活の中で小さな決断を無意識に繰り返し行っています。モノが多い＝選択肢が多い状況下では、知らないうちに脳が決断疲れを起こし、本当に大切な決断をする前に消耗してしまうことになりかねないのです。

アップルの共同創業者である亡きスティーブジョブズ氏や、Facebookのザッカーバーグ氏、米オバマ前大統領は、ほぼ毎日同じファッションに身を包んでいます。日本においてもデザイナーの佐藤ナオキ氏、靴デザイナーの瀧見サキ氏も、仕事の時は同じ服にしています。これは、日々の決断を減らすための一種のアプローチではないでしょうか。

心理学者のバリー・シュワルツ氏が説いた「選択のパラドックス」は、選択肢が多いほど、人は自由でいられると思われているが、多すぎる選択肢は、人を麻痺させてしまい、選んだことが出来たとしても、選択肢が少ない時と比べると満足度が低下すると主張しています。

私自身、ファンドマネージャーとして、大切だと思うこと以外に、心を砕く機会を出来るだけ減らし、大切ではないがしなくてはいけないことは、ルーティン化するなどを心掛けています。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

世の中は進化し、私たちは、ほぼリアルタイムで溢れる情報に接することが可能な時代となりました。フェイクニュースが今年の流行語に選ばれたように、その情報には、真贋の見極めを必要とするものも含まれています。マーケットに携わるものとして、情報を見極め、判断する正確性は持ち続ける努力は欠かせません。

みなさまも、脳の疲労の蓄積を防ぎ、生産性を上げるために、まずは年末に向けて部屋の整理整頓をしてみたいはいかがでしょうか？

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。